

講義年月日 2006年6月12日(月)
講演者 加藤 好郎 氏 (慶應義塾大学国際センター事務長)
テーマ 大学図書館経営からみたリスクマネジメント

講義内容

1. はじめに
リスクマネジメントの必要性
 - ・ 大学図書館の地域開放 大学の構成員以外の図書館利用
 - ・ 開館時間延長、日曜開館の実施 セキュリティーと専任不在時の対応
 - ・ 電子ジャーナル購入 図書予算の運用、エージェントの倒産
 - ・ 利用者のレベル低下
2. 最近の出版物
危機管理の手引書、図書館の問題利用者：前向きに対応するためのハンドブック など
3. 米国におけるリスク回避の歴史
1950年代 火災対策 スプリンクラー(図書にとっては火も水も同じ被害)
1960年代 図書の盗難 BDSの導入
1965～1970年代 大学紛争 図書館用保険契約
1975年 バージニア州で図書資料窃盗法が制定
1980年代 全国盗難資料リストデータベース 古書店と協力
対「物」へのリスク回避から、対「人」へのリスク回避になってきている。
4. 日本での危機管理
1980年代まで 閉架から開架へのサービス展開 紛失資料に関心
1990年代 阪神淡路大震災 防災関係に関心
問題利用者 断る理由を明確にする
1996年 司書課程カリキュラムで危機管理が扱われる 理論構築が出来ていない。
5. 問題処理からみたリスクマネジメント
管理運営担当：庶務関連、人事関連、会計関連、施設関連
テクニカル・サービス：収書担当、選書担当、目録担当、システム担当
パブリック・サービス：レファレンス担当、雑誌担当、閲覧担当、貴重書室担当
6. 図書に対するリスクマネジメント
資料の劣化：生物的要因、化学的要因、物理的要因
7. セキュリティー関連事例
図書館資料の盗難 英国の公共図書館など、防犯カメラ導入 効果大
問題利用者 クレイマー事件 内規、規則を定める必要性
8. 西ケンタッキー大学図書館利用サービス方針書
ガイドライン、許容できない行動例、を定めている
9. 公共図書館における問題利用者の代表的行動
第3級：はた迷惑(迷惑だが無害) 第2級：微妙な(深刻ではあるが) 第1級：非常に深刻
10. 危機・安全管理のマニュアルの作り方
リスクマップの作成
リスクの強度とリスクの頻度に分ける 4つに分析する リスクの種類に分ける
保有(強度小・頻度小) 制御(強度小・頻度大) 転嫁(強度大・頻度小) 回避(強度大・頻度大)
11. さいごに
 - ・ 事例の積み重ね
 - ・ 危機管理のポイント 起きたことで非難されるのではなく、起きたことに対してどう対応したかによって非難されるので、リスクマネジメントの必要性がある。